



リビング Interview インタビュー

義肢製作に魅せられ 今年で創業 70 年！

中礼義肢製作所 代表取締役社長

中禮 光明 さん

PROFILE：ちゅうらい・みつあき 1949年鹿児島市生まれ。73年に千葉工業大学を卒業し、74年国立障害者リハビリテーションセンターの研究員に。89年に帰郷し、父親が経営する「中礼義肢製作所」の常務に就任。2006年から現職。息子2人も同製作所に勤め、孫6人の71歳

事故や病気で失った体の代わりとなる義足や義手などの「義肢」、不自由な体をサポートする「装具」などの製作を行う「中礼義肢製作所」。鹿児島市に本社がありスタッフは約40人。1950年に戦争で傷を負った兵士の義肢を作るために創業し、今年で70年を迎えます。

「創業時から長年お付き合いしている方もいて、多くのお客さんに支えられてきました。先日も当初から義足を作り続けている99歳の方との打ち合わせで、自宅にお邪魔してきたんです」。そう話すのは、3代目の社長で義肢装具士の中禮光明さん。

会社の創業者である父の働く姿を見て育ち、子どもの頃から家業を手伝ってきました。大学卒業後は、埼玉県にある現在の国立障害

者リハビリテーションセンターで義肢の製作と研究開発に携わり、39歳で中礼義肢製作所へ。56歳で兄から社長を受け継ぎ、義肢装具士としても第一線で活躍してきました。

この道約50年のキャリアがありながら、「今だに勉強中」と語る中禮さん。義肢を作る際には、利用者の仕事、坂や階段が多いのかなど生活の様子、悩み、希望までを丁寧に聞き取って設計します。「いつも、自分の友人だと思つて話を聞いています。できるだけ利用者の、手足の代わりになるようなものを作りたい。少しでも生活が楽になったら、と努めています」

中でも一番感激すると話すのが、利用者が義肢を使い込んだ結果、通常よりも早めに修理が必要になった時。「それだけ使ってくれ

ただ。気に入ってくれたんだな、と感じます」

靴や中敷きの製作にも注力

中礼義肢製作所では、靴や中敷きの製作にも注力。足の変形や外反母趾（ぼし）、膝の痛みなど、悩みに応じてオーダーメイドで製作にあたります。「今は障がい者や高齢者の利用が多いのですが、今後はもっと一般の方にも使つてほしいと考えています。自分に合った靴や中敷きを使うことで、より快適に歩けるようになりたいです」

また、新しい機械の導入や、社員の技術向上を目指す社内外の研修会にも、積極的に取り組んでいます。「これからも、利用者の行動範囲が広がり、生活が豊かになるようなものを作り続けていきたいです」

（編集部 大久保織恵）